



東京学芸大学附属高等学校

第25回 公開教育研究大会及びSSH事業報告会（1次案内）

多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、これからの学びのあり方を共に深める機会といたしたく、以下のとおりご案内いたします。

生徒が試行錯誤を楽しみながら自己表現できるカリキュラムづくりとは？
～深い学びに誘う教師エージェンシーの発揮と主体的・対話的な授業の創造～

日時・場所

【日時】 令和8年11月28日（土）

【場所】 東京学芸大学附属高等学校 東京都世田谷区下馬4-1-5（東急東横線「学芸大学」駅下車 徒歩15分）

《研究主題について》

本校ではこの3年間「生徒エージェンシー」の育成を主題として掲げてきました。昨年度は「カリキュラム・マネジメント」と「評価」に注目し、どのように「生徒エージェンシー」を育成することができるかの具体化に取り組み、「エージェンシー尺度」を用いた質問紙調査や校内研修を通して、「生徒たちが試行錯誤を楽しみながら自己表現している姿」が、本校の特色として見えてきています。

今年度は、教師自らもまた試行錯誤しエージェンシーを発揮することが「生徒エージェンシー」の育成につながるという視点に立ち、「深い学びに誘う教師エージェンシー」に焦点を当て研究を進めていきます。また、各教科の取り組みはもちろん、教育活動全体を通してこの課題に向き合うため、引き続き「カリキュラムづくり」に主眼を置いています。

当日の内容 ＊参加には事前申し込みが必要です。

9:30 ～ 10:20

公開授業Ⅰ

－ 授業の概要は公開授業の項目を参照ください。

休憩

10:30 ～ 11:20

公開授業Ⅱ

昼休み

12:15 ～ 13:45

研究協議会

－ 教科ごとに協議会を行います。

休憩

14:00 ～ 15:30

講演会

「新時代に求められる教育課程のあり方

～試行錯誤を楽しむ学びを支えるために～

堀田 龍也 先生（東京学芸大学 副学長・教職大学院 教授）

15:40 ～ 16:30

SSH事業報告会

－ 本校のSSH事業の取り組みについてご報告・ご紹介いたします。

参加申込

公開授業および講演会のご案内（2次案内）、ならびに参加申し込みの手続きについては、10月上旬に本校ウェブサイトにてお知らせいたします。なお、2次案内には、公開授業や協議会の詳を掲載する予定です。

《本校ウェブサイト URL》

<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>



【主催】東京学芸大学附属高等学校

【後援】東京都教育委員会（申請中）

【お問い合わせ】研究推進 齋藤・渡邊

（TEL: 03-3421-5151）

公開授業の概要

国語	随筆（エッセイ）を中心にした単元の構想	授業者：金指 紀彦
言語文化 (近代以降の文章)	『言語文化』における「書くこと」の学習、「創作」活動、そして「論理的思考力、感性・情緒」両面のバランスよい育成がこの単元の主眼である。AI との共存も視野に入れた授業展開を考えている。	
国語	古典文学と留守模様	授業者：阿部 由美
古典探究	『言語文化』における「日本には『伊勢物語』や『源氏物語』の作中のモチーフを用いた絵画や工芸品が数多くある。特に人物を描かずに「匂わせる」留守模様に注目し、古典の本文と絵画工芸作品とを往還しながら古典を楽しむ授業を提案する。	
SSH 地球科学	教科融合の観点から考える「地球的課題と国際協力」	授業者：松本 至巨 / 齋藤 洋輔
地理領域 地学領域	〔教科融合〕 昨年度より地理総合と地学基礎を融合させた教科「SSH 地球科学」を立ち上げた。本授業では、地理分野「地球的課題と国際協力」の単元を取り扱い、地学との教科融合の観点から教師エージェンシーの発揮について考えたい。	*地理と地学を融合させた本校学校設定科目です
数学	三角比に関する定理間の関係について	授業者：大淵 拓海
数学 I	数学 I の三角比では、正弦定理や余弦定理などの「定理」を学習する。しかし、それらの定理間の関係付けは行われない。本授業では生徒が定理間の関係をどのように意識化し、その定理自体の理解を深めるのかを生徒の実態を通して考察したい。	
理科	酸化還元を利用した技術について考える(仮)	授業者：中野 史穂
化学基礎	酸化還元を履修したのちの発展的な学習として、酸化還元の利用について、プレゼンテーションを考える。電子を取り出すシステムとして出てくると考えられる電池について、実際に「マンガン乾電池」「アルカリマンガン乾電池」を作成することで、科学技術に生きる化学の知識を認識していく。	
理科	がん検診をどうすすめるか	授業者：小境 久美子
生物基礎	昨年度の公開授業では、身近な人にがん検診をすすめるかについて数学的根拠、生物学的根拠をもとに検討した。今年度は、より広い対象に対しがん検診をすすめる際、どのような情報を根拠にすると有効かについて検討したい。	
芸術	芸術と私	授業者：居城 勝彦 / 神田 春菜 / 松原 直也
音楽 I 美術 I 工芸 I 書道 I	芸術科共通の見方・考え方を広げ、多様性への理解を図ることを目指し、芸術科合同で授業を行う。前半にて、現在授業で創作している作品を紹介し合う。後半では、芸術が私たちの生活（人生）により身近になるためのプロジェクトを考え提案する。	
家庭科	災害に負けないまちづくりをしよう(仮)	授業者：野澤 風沙
家庭基礎	共助、公助の視点から、地域の復興や地域コミュニティの視点から災害発生後の暮らしについて考える学習を行う。これにより、生徒がこれまでの暮らしを見つめ直し、災害後の地域・社会との関わり方について学ぶ授業を提案する。	
外国語（英語）	生徒同士のインタラクションによる内容理解活動の提案(仮)	授業者：石原 秀人
英語コミュニケーション I	本授業では、現在提案されている様々な授業モデルをもとに考案した、生徒が英語を使いながら既習事項を復習することで、英語力の向上を図る活動を実施する。またその活動の実施に至るまでの授業をあわせて紹介する。	

*保健体育の概要は 2 次案内でお知らせします。